

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担）研究報告書

都道府県におけるがん対策の進捗評価あり方についての検討と
男性がん患者に対する情報提供に関する研究

研究分担者 片山 佳代子 国立大学法人 群馬大学 准教授

本研究は、患者への積極的な情報提供の在り方、ピアサポートの活用などの実態を明らかにしがん医療体制の充実を図ると共に、次期がん対策推進基本計画に向けた新たな指標及び評価方法の開発のため数理モデルの活用して施策の優先度の検討や、他の都道府県との連携などの発展性についての提言を行うことを目指した。患者体験調査データ解析から、情報提供やピアサポートの在り方に「性差」という概念を入れて取り組む必要があることと、特にピアサポートや相談支援センターの活用が低い男性患者に注目し、男性患者ならではのアンメットメディカルニーズや情報収集のあり方について検討した。

A. 研究目的

本研究は、患者への積極的な情報提供の在り方、ピアサポートの活用などの実態を明らかにしがん医療体制の充実を図ると共に、次期がん対策推進基本計画に向けた新たな指標及び評価方法の開発のため神奈川県ならびに群馬県のがん対策推進審議会と連携し、がん登録データを積極的に活用し、罹患予測や検診の精度管理等を実施することで、科学的根拠に基づくがん対策を推進することを目的とする。また患者体験調査から得た解析結果を通して、患者の求めるがん情報、発信や支援のタイミング、特に男性患者へ向けた情報の発信のあり方を検討することとした。

B. 研究方法

- ①各県のがん対策行政と連携し、各々の県が抱える課題についてデータサイエンスの技術で何ができるのか、がん登録データの利活用を含め検討した。こうした事例を研究班で共有し、その進捗評価の改善案を示した上で、研究班員らと、行政担当者との実務的レベルでの連携の在り方を検討することとした。
- ②患者体験調査データを用いて、患者の医

療満足度が情報の入手時期やその方法によってどのように異なるのか、またピアサポートの利用率などを解析し、相談行動の性差に注目した。がん患者の相談支援についてフォーカスグループインタビュー（FGI）を行い、データ解析だけでは不明だった、男性患者のアンメットニーズを明らかにするために音声データをテキストマイニングを行い、共起ネットワーク分析を実施した。

C. 研究結果

- ①群馬県ではこれまで、疫学者やデータサイエンティストががん対策策定、進捗評価に関わる機会がなく、今年度からがん対策の中で個々の課題解決に積極的にデータの力を使い、よい効果的に科学的にがん対策を進めていくことになった。そのあしがりとして各がん検診の精度管理を行い、各指標をファンネルプロットで示し、小地域別の状況を可視化し、行政や検診担当者とその結果について議論することができた。このような取り組みは一緒に議論し、対策の糸口となるような解釈も含めて話し合いをしていくことで、より効果的で科学的根拠に基づいたがん対策を講じることが可能

となることが示唆された。

②FGI の結果について、音声データをテキストマイニングを行い、各テーマごとに共起ネットワーク分析を行った結果、いくつかのクラスターが現れその中でも大きなクラスターが「患者会」であった。男性患者にとっての患者会の存在の大きさが示唆された。

D. 考察

群馬県では、今後はさらに科学的根拠に基づいたがん対策に繋げていく予定である。

FGI で男性のアンメットメディカルニーズや相談行動について拝聴したところ、男性特有の性の固定概念やプレッシャーがある中で、唯一心を許し本音で語る事ができる場が男性同士で作る患者会であることが示唆された。患者は第1段階として、「自分自身のために情報収集をする」が、第2段階として「誰かのために情報収集した結果を広く発信」し、第3段階では「社会のためにアドボケート」していくという構図が見られた。また患者会に参加することで自身の患者力を上げることができ、それによって戦うことができた、という参加者の言葉が印象的であった。

E. 結論

がん対策を担う行政の担当者同士の横のつながりを作ったり、がん対策進捗評価に数理モデルを積極的に活用したり、またデータサイエンティストがかかわるメリットを自治体同士で情報収集・意見交換する場があると、他県での活用に繋がる可能性がある。

相談支援、ピアサポートの活用が低い男性患者に対しての支援や情報提供の方法につ

いては、女性とは異なるアプローチが必要であり、支援者側で情報を整理し男性患者には男性患者による患者会や勉強会などの情報を提供することも必要である。

G. 研究発表

1. 論文発表

・ Ono k, Kasashima R, Katayama K, Miyagi Y, Yokose T. Clinicopathological and Molecular Characteristics of Endometrial Neuroendocrine Carcinomas Reveal Preexisting Endometrial Carcinoma Origin. Pathology International. 2021 Aug;71(8):491-499.

・ Cynthia de Luise, Sugiyama N, Morishima T, Higuchi T, Katayama K, Nakamura S, Haoqian Chen, Edward Nonnenmacher, Has R, Jinno S, Kinjo M, Suzuki D, Tanaka Y, Setoguchi S. Validity of claims-based algorithms for selected cancers in Japan: Results from the VALIDATE-J study. Pharmacoepidemiology & Drug Safety. 2021.Sep;30(9):1153-1161.

・ Ueda Y, Katayama K, Yagi A, Kimura T. The chasm we must cross in Japan for re-promotion of the HPV vaccine. Cancer Prevention Research. 2021 Jul;14(7):683-686.

2. 学会発表

・ 片山佳代子、佐藤美紀子、助友裕子、扇原淳. Development and Validation of a Peer Education Program for Cervical Cancer Prevention. 第32回日本疫学会学術総会(オーラル：オンデマンド)OD-077. 2022, 2月

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし